

幼児教育長期派遣通信 1 学期号

発行 令和 5 年 9 月 6 日

福山市立緑丘小学校 渡部 裕貴（派遣園・所：福山市立緑丘幼稚園）

本年度、「幼児教育長期研修派遣研修」として、福山市立緑丘幼稚園で研修をしています。

本研修では、幼児教育の実践を体験することによって、幼児教育の理解や幼保小接続の充実を図ることを目的としています。1 学期号では、「遊びは学び」に向けた環境づくりや保育者の援助などについて紹介します。

1 1 学期の研修内容

(1) 園内研修

- ・年長組保育観察，補助
- ・月案，週案の確認
- ・保育カンファレンス
- ・エピソード研修
- ・研究保育

(2) 園外研修

- ・幼児教育理解に係る研修会
- ・接続に係る研修会
- ・子供理解を深めよう研修会
- ・自校のスタートカリキュラムの授業参観
- ・幼保の先生によるスタート訪問参観
- ・幼保小連絡協議会
- ・幼保小連絡教育合同研修会
- ・研究授業参観（1 年体育）

2 研修を通して（事例紹介）

【事例①】「わあっできた！」（シャボン玉遊び）

※乳幼児期に育みたい5つの力の中で、特に育まれた力を載せています。

- 感じる・気付く力
- うごく力
- 考える力
- やりぬく力

（写真を指差して）
これがしたい！



【遊びのきっかけ作り】



これでもできるかな？



【遊びが広がる】



フラフープで大きいシャボン玉を作ってみよう。



【試して遊ぶ】



風が来たら...



【とことん遊び込む】

遊びの発見や
新たな遊びへ

子供の遊びの様子

廊下に置かれたシャボン玉遊びの本を子供が手に取り、読み進めていくことで興味が沸き、遊びが始まりました。遊びの姿を見た友達が興味を示し遊び始めたり、色々な道具を使って自分の思い描くシャボン玉遊びをしたりしました。「今日はこの道具を使ってみよう」「こんなシャボン玉を作ってみよう」と、連日試行錯誤しながら遊び込みました。

☆遊びの中での学びを支えたもの

【興味をもつきっかけ作り・場の工夫】

子供の目に留まりやすく、手に取って読むことができる場所に本を意図的に置くことで、興味をもつきっかけ作りが行われていました。本をじっくり読むための机や、読んだ後すぐに遊びが展開できるような動線を確認するなど、気持ちが途切れないように工夫されていました。

【保育者の関わり方】

遊びに興味をもったり広げ深めたりするために、保育者も一緒になって遊びに参加しました。保育者がいることの安心感が基盤となり、子供がしたい遊びをのびのびと存分に行うことができました。また、伝えたいけど伝えられない気持ちを保育者が代弁し表出することで、周りの友だちの興味を喚起し、思考するきっかけにもなりました。

【小学校教育とのつながり】

予想を基に体全体・五感をフルに活用して問題解決に取り組み、実感を伴った理解ができる時間を充実させることが大切だと考えました。表情や仕草，行動に関わる背景や意図を児童の目線で適切に読み取り，児童が内面で感じたり気付いたりしたことを友だちに伝えつなげていく支援も必要です。

【事例②】「ようこそ らいおん組水族館へ」

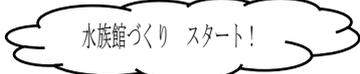
うごく力 考える力 やりぬく力 人とかわる



魚が泳いでいるよ

水族館みたいだね!

【自分のイメージを作り出し遊ぶ】



水族館づくり スタート!



今日は何作るんだっけ?
どうやって作る?



【イメージの共有】

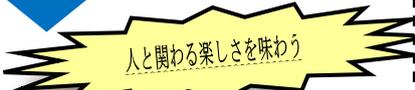


(年長)
いらっしゃいませ!ようこそ!



(年中・年少)
ペンギン楽しいな!

【場の完成・友達を招待】



人と関わる楽しさを味わう



【振り返り】

子供の遊びの様子

好きな遊びの時間に、遊戯室でソフト積み木や大型積み木、ペープサートなどを使って、海の生き物遊びをしていました。「水族館みたいだね」の声にみんなが反応し、水族館づくりが始まりました。数日に渡り子供たち同士で話し合いや場づくりを行い、完成した水族館で思う存分遊びました。遊ぶ中で他の友達も招待したいという思いが生まれ、みんなで楽しむことができました。

☆遊びの中での学びを支えたもの

【イメージの共有】

水族館という言葉は知っていても、「実際に行ったことがある」「本で見たことがある」「海や川の生き物がいる」と、それぞれが想像する水族館にはズレがあります。話し合いでそれぞれのイメージをすり合わせるだけでなく、絵本や動画などでイメージの共有を図っていくことで、お互い折り合いをつけながら納得のいく遊びになりました。

【相手意識】

自分達で作った遊びをたっぷり遊び込むことで満足感や達成感を味わい、年中組や年少組への相手意識が生まれました。「こうしたらもっと良くなるのではないか」「喜んでもらうためにはどうしたら良いだろう」と意識が変わり、工夫する力や他者と協力して遊び込む力を育むことができました。

【環境(物)の充実】

子供一人ひとりの「これを作りたい」想いに寄り添い、瞬時に「これは使えそうかな」などと物を提示し援助していくことで、子供の集中や気持ちが切れることなく没頭することができます。そのためにも、日頃からどこに何が置いてあるか確認しておくことが大切です。

【小学校教育とのつながり】

集団活動では、子供一人ひとりの実態を細かく分析し、集団としての課題を適切に理解して展開することが大切です。○年生だからではなく、目の前にいる子どもの実態をふまえ、どんな力を育んでいけば良いか常に考えて取り組み続けたいと思います。話し合いでイメージの共有を図る時、子供達は生活経験や知識量の差により、理解したつもりになっているケースが実は多いのではないかと考えられます。少しでもイメージを共有化し深い学びに向かうために、言葉でのやりとりだけでなく、実物を用意して視覚的に理解できるようにしたり、実際に体感する場面を設定したりしていきたいです。

3 まとめ

子供一人一人が安心感をもって過ごすことができる場があることで、自己を発揮し、主体的な学びにつながっていくことを感じました。適切な環境や援助のもと、幼児は繰り返し遊びながら新たな発見をしたり思考が深まったりしています。小学校でも、就学前の学びや育ちを理解し、児童の興味関心や学ぶ中での変容を見取る力、授業のねらいに対して柔軟に学習を展開する力等を付けていきたいです。

〈乳幼児教育支援センターより〉

乳幼児期の子供たちは、自らいろいろなことに対して興味や疑問を持ち、自分なりに試行錯誤しながら様々な学びをしています。これらの資質・能力は、生涯に渡る人格形成の基礎を培う重要なものです。幼保小の接続は、小学校で困らないようにするための接続ではなく、乳幼児期の遊びの中の育ちを更に伸ばしていく接続であることが大切です。